

あの研究の誕生秘話

研究者がおこなった研究の成果は論文などの形で公表され、後世に残っていく。しかしそうした出版物からは、そこに至るまでに何があったのかは必ずしも明らかにならない。そもそもなぜそのテーマに興味をもったのか、どんな見通しをもって研究を進めていたのか、最初から期待通りの結果が得られたのか——など、論文に書かれないことはいくらかでもある。

研究者自身の言葉で語られた成功や失敗の過程は次代を担っていく若手にとって励みや指針となるだろう。とりわけ、重要な研究成果であるのなら、結果が得られるまでの過程を記録しておくことは、物理学史の観点からも大きな意味があるに違いない。

研究者が過去の仕事を回顧する記事は、本誌にもたびたび掲載されている。それらは特集の一部として執筆されて

いたり、著者自身によって本誌に投稿されたものであったりするが、編集委員会から個別に依頼することはこれまで基本的におこなってこなかった。

しかし、仁科記念賞を受けられたような優れた業績であつてすら、その研究成果の生まれたプロセスが活字となっていることはまれである（居酒屋で語られることのほうがはるかに多い）。そのような、まだ書き留められていない研究の物語を紹介していくことは、本誌にとっても有意義な取り組みではないだろうか——。

本シリーズ「あの研究の誕生秘話」は、そうした考えから始まった。今後、折に触れて編集委員会から執筆依頼やインタビューなどをおこない、不定期に記事を掲載していく予定である。

（2020年9月17日原稿受付，文責：会誌編集委員会）

